

山形大学医学部PR特集

企画・制作/山形新聞社広告局

山形の未来医療を拓く アフターコロナの羅針盤

新型コロナウイルスは、5月にも感染法上の「5類」へ引き下げられ、発生確認から3年の時を経てようやく「アフターコロナ」へと移行しつつある。山形県の医療の砦として新型コロナウイルス対策などにも奮闘してきた山形大学医学部は、新たなステージをどのように見据えているのか。山形のこれからの医療や暮らし方への影響などを伺った。

土谷順彦・新病院長インタビュー



コミュニケーションを重視 地域との連携を密に

4月1日、山形大学医学部附属病院の新病院長に、土谷順彦教授(腎泌尿器外科学講座)が就任する。これからの病院運営のポイントや目指す方向性とは。

病院長の就任に当たり、これからの病院運営の方向性をどう考えているか。

山形大学医学部附属病院は、行動目標として①診療科の垣根を取り払い、病院全体として適切な医療を提供する②情報開示に努め、社会に開かれた病院を目指す③個々の患者さんに適した先進医療の開発・導入に努め、④厳しい倫理観を持った創造的な医療人を育成するの四つを定めている。この理念はそのままに、山形大学医学部附属病院ならではの先進的な取り組みをさらに高め、一人間性豊かな信頼の医療を追求していきたい。

何といっても、東日本重粒子センターの本格稼働だ。がんの重粒子線治療装置は国内で7カ所目。東北・北海道エリアでは初となる。世界的にも希少で、高い治療効果を持つ施設を今後どう生かしていくかが鍵となる。山形大学の場合、装置の小型化を実現し、病院に隣接して設置できた点が大きな特徴で、他の疾病の管理下で重粒子線治療を受けられる安心感、他にない強みだ。今後さまざまな診療科で臨床研究が進むことも期待される。治療の選択肢が増えることは患者さんにとって希望だ。山形から新たな治療法を開拓し、施設の恩恵を県民に還元していきたい。

また私の専門である前立腺がんについては、重粒子線治療を受けた後の患者さんを地域のクリニックなどでフォローするマッチングシステムが軌道に乗った。地域内でのモデルができれば、患者さんはより安心して高度な医療を受けられるだろう。

手術ロボットが2台に

「ほかに高度医療の拠点として、病院機能の拡充が進んでいると聞く。」

佐藤慎哉病院長の在任中、ハード、ソフト両面でさまざまな拡充が進んだ。例えばリハビリテーション部、AIやロボティクス、VRなどを活用した最先端の機器を導入し、入院した時より元気になって退院できる「元気増進退院」を目標に掲げ、急性期からの積極的なリハビリを推進している。また外来で抗がん剤治療を行う化学療法室は患者数、件数共に増えており、ニーズに応えるためベッド数を拡充した。さらに「ロボット支援手術」も件数が増加していることもあり、ロボット「ダヴィンチ」を新たに1台追加した。患者さんの病状や状態に応じて最適な治療方法を提案していくよう、これからも努力や工夫を重ねていきたい。

「3年に及んだコロナ禍から得たこととは。」

さまざまなある。本県での新型コロナの診療は基本的に、2次医療圏ごとにある感染症指定病院で行い、附属病院としては重症患者や専門的治療が必要な患者を受け入れてきた。このように病院間で役割を分けた結果、全国的に懸念された医療崩壊には至らずに済んだ。地方では特に、限られた医療資源をうまく使っていくことが大切で、その考え方は県民の皆さんにも広く浸透したと感じる。この経験は今後の有事の際も生かされるだろう。

まずは急性期の高度医療を担う使命に応えること。そして大学は県内唯一の医師養成機関。附属病院としても、人間性豊かな医師を育てる役割があり、地域に根差した医師を養成できるような地域医療の重要性を訴えていきたい。そして、重視しているのはコミュニケーションだ。医療は大学だけでは完結できるものではない。地域の医療機関との連携が大切だ。コロナ禍により、人と人が顔を合わせて会話をすることが難しくなり、紹介状だけの関係になってしまったところもある。大学の取り組みも伝え切れていない。アフターコロナはたくさんの方々のコミュニケーションを密に、新たな関係性を構築し、山形県の医療のさらなる発展に貢献していきたい。



「世界をリードする医療の拠点を、目指す山形大学医学部附属病院。」

山形大学医学部 腎泌尿器外科学講座 教授 土谷 順彦氏

秋田大学医学部卒業、秋田大学准教授などを経て2015年から現職。4月1日から山形大学医学部附属病院院長に就任。

DOUJOB 「春の桜をイメージした和のスイーツドリンク」好評発売中! ドールコーヒースタイル 山形大学病院店

みなさまの御利用 おまちしております。山形大学病院内 簡易郵便局 〒990-2331 山形市飯田西2-2-2

健康経営優良法人 2023 上山市 「心と体がうらやま」クアオルトかみのやま

わたしたちは... 病院内の「あつてよかった」をつくっています

街が動き出す いつもの朝 昨日とは違う朝 街の鼓動を感じ 新しい一日がはじまる

挑戦が、やまがたを強くする。

「健康に自信・職場に安心!!」人間ドックで早期発見! みなさまの健康を全力でサポートいたします

山形大学医学部 山形市飯田西2-2-2 TEL 023-631-1103

職場環境改善 オビサン株式会社

一般財団法人 楽山会 rakuzankai 〒990-9585 山形市飯田西二丁目2番2号

ふるさとのために。 庄内銀行

山形銀行

新年度がスタートします。健康診断は計画的に! がんに関するお悩み、お気軽にご相談ください!

お客様が満足する 質の高い情報とサービスをタイムリーに提供します

私たちは お客様と手をつなぎ心をつなぎ エネルギーの安定・安全供給を通して 共に成長発展し 地域社会に貢献します

やまがたをソゾウする webメディア 山形会議 yamagata-kaigi

この街の未来、つくっていきましょう。 MAKE A FUTURE OF OUR TOWN

山形の未来医療を拓く

山形大学医学部PR特集

新任教授からの
メッセージ

ポストコロナ時代の 山形の医療

講座を預かりその領域をリードする山形大学医学部の教授陣。近年、新たに就任した3氏のストーリーを、アフターコロナへの展望と共に紹介する。



山形大学医学部
内科学第三講座神経学分野
教授 **太田 康之氏**

岡山大学医学部卒。カナダ・ラバ
ル大学研究員、岡山大学院講
師などを経て2020年から現職。

「山形こそが最先端」 研究、広報にも力

神経や血液、糖尿病
などをテリトリーとする
第三内科。その中でも
脳神経内科は、多く取
り扱う疾患の一つに私
たちにとって身近な「認
知症」がある。ほかには

感染症
対策

ワクチンを開発し 世界規模でウイルスを克服 人類史上初の経験を経て、豊かな人生を

新型コロナウイルスの発生確認以降、感染症対策のプロフェッショナルとして、対策の実践と各所への助言を行ってきたのが、山形大学医学部附属病院検査部、感染制御部の森兼啓太郎だ。「5類」へと移行し、私たち暮らしはどう変わるのだろうか？



山形大学医学部附属病院
検査部 感染制御部 部長
森兼 啓太郎氏

新型コロナウイルスは、発生当初から、何らかの形で集団免疫が獲得され、最終的には「ただの風邪」になる、というゴールが見えていたが、ようやくその時が来たという感じだ。新しい感染症に対し全く新しい技術でワクチンの開発がなされ、それが世界規模で使用され、ウイルスを制御した。人類史上初めての経験だ。開発されたメッセンジャーRNAワクチンは「設計図」を入れるワクチンなので、その設計図を変えれば他のウイルスに応用できるメリットもある。予防効果は薄くても、重症化を防ぐ効果があることは分かった。今後、人類が新たなウイルス感染症に直面しても、今回の経験を生かし、ロックダウンや経済の混乱を来さずに済むと

東京大学医学部卒。同大学附属病院などで外科医として勤務。感染制御の専門に転じ、国立感染症研究所主任研究員、米疾病制御予防センター客員研究員などをを経て2009年に山形大学へ、10年から現職。

期待したい。新型コロナウイルスは若い人にとっては「風邪」のようなものになる。しかし高齢者や基礎疾患がある方などにとってはまだまだ脅威だ。マスクの着用について個人の判断に委ねられたが、これからの暮らし方はそれぞれが考える必要がある。若者は感染リスクより、アクティブに生活するメリットが大きいかもしれない。高齢者も自宅にこもるより外出して会話や食事を楽しむ方が免疫機能を高めるかもしれない。現状を理解した上で判断してほしい。おのおのの人生観が問われている。一方で、マスク着用は、職場やコミュニティでルールがあるなら従うべきだ。ワクチン接種についてもそうだが、自分の考え方を押し付けたくないことだ。

この3年間で、消毒やパーティションなどの感染対策が普及し、日常生活に定着した。その中でも「換気」は、飛沫感染の制御に効果が高いことが再確認された。今後の暮らしに生かしていきたい貴重な経験だ。また、後遺症も課題として残っている。症状など実態がだいぶ分かってきたが、治療法はまだ確立していない。現状を受け入れ、周りの人も理解することが大切だ。

2020年以降、さまざまな苦労があったが、ようやく3年前に戻れる道筋がついた。今後は、普段から健康な体を維持することを心掛けた。コロナ禍で、人とならがる大切さを改めて感じた人も多かっただろう。その学びを糧に、健康で豊かな人生を送ってほしい。

地域とともに築く看護

公益社団法人
山形県看護協会
会長 若月 裕子
山形市松栄1-5-45 (アルカディアソフトパーク山形内) ☎023-685-8033

かかりつけ歯科医院に
定期的に通い、ずっと笑顔で
“健康長寿”を目指しましょう!

一般社団法人
山形県歯科医師会
山形市十日町2丁目4-35 ☎023-632-8020
<https://www.keishi.org>

山形県民のみなさまの
健康のために

一般社団法人
山形県医師会
会長 中目 千之
山形市松栄1-6-73 TEL023-666-5200
FAX023-647-7757
<https://www.yamagata.med.or.jp/>

皆様の健康と命を守り、
医療を通じて
心の支えとなる病院

北村山公立病院
Kitamura Hospital
〒999-3792 東根市温泉町二丁目15番1号
TEL.0237-42-2111(代) FAX.0237-43-6169
<https://www.hosp-kitamura.jp/>

私たちは、地域住民に信頼され、
安全で安心な
笑顔の病院をめざします。

寒河江市立病院
Sagae City Hospital
病院事業管理者 久保田 洋子
院長 後藤 康夫
内科・整形外科・外科・皮膚科・
眼科・リハビリ科
〒991-8508 山形県寒河江市大字寒河江字塩水80番地
電話/0237-86-2101 ファックス/0237-86-9578

鶴岡市立荘内病院
Tsuruoka Municipal Shonai Hospital
鶴岡市病院事業管理者 八木 実
院長 鈴木 聡
〒997-8515 鶴岡市泉町4-20
TEL0235-26-5111(代表)
FAX0235-26-5110

一般社団法人 鶴岡地区医師会
(管理・運営)
**鶴岡市立
湯田川温泉
リハビリテーション病院**
院長 武田 憲夫
〒997-0752 鶴岡市湯田川字中田35-10
TEL0235-38-5151
FAX0235-38-5152

地域医療連携推進法人 **日本海ヘルスケアネット**

地方独立行政法人
山形県・酒田市病院機構
理事長 栗谷 義樹

日本海総合病院
病院長 島貫 隆夫

日本海酒田リハビリテーション病院
病院長 鈴木 晃

日本海八幡クリニック等診療所
診療所長 土井 和博

升田診療所・青沢診療所・松山診療所・地見興屋診療所・飛鳥診療所

山形の未来医療を拓く

山形大学医学部PR特集

コロナ禍によりオンライン診療の普及が加速した。その流れはアフターコロナにおいても止まらないだろう。しかし、そこには「最も遠いところで勝負してきた」と自負するのは、外科学第二講座の内田徹郎教授。外科の花形とされる心臓外科の道を、山形大学で究めて

メスでしか救えない患者がいる

「死亡率ゼロ」という未踏峰に挑んでいる。同時に見据えるのは患者の術後のQOL。困難な手術でも、体への負担を減らすため1分1秒でも手術時間は短い方がよい。それを可能にするのは「術前の戦略」という。事前に十分にイメージトレーニングを行い、開始したら迷わない。やるべきことを淡々とするだけ」

きた。ゲノム、ロボット、画期的な薬物……。医療の世界では日々新しい技術や治療法が開発されているが、それでも「メスでしか救えない患者がいる」が信念だ。



山形大学医学部 精神医学講座 教授 鈴木昭仁氏

顔の見える関係性が地方の強み

大谷浩一前教授との縁で山形に移り、その後を継ぐ。山形大学医学部精神医学講座は、臨床ではうつ病、認知症、児童の外傷があり、専門性を生かした治療に力を入れている。薬理遺伝学やパーソナリティに関

変わらぬ思いだ。コロナ禍は精神科の領域においても大きな影響をもたらした。例えば病院での面会が制限されたこと。認知症をはじめとする疾患は、家族とのコミュニケーションが重要な鍵となる。そうした理由から、入院を控える傾向も見られたという。アフターコロナが見えてきた今、懸念しているのはうつや不安障害などの増加だ。東日本大震災の時、精神疾患の発症率は、災害の直後から5年以上高い状態が続いた。混乱をようやく乗り越えても、少し落ち着いた後に体調を崩すというところは誰しも心当たりがあるだろう。研究が必要だと気が引き締める。

大学病院の精神科は急性期医療を得意とするが、その後のリハビリなどは地域の病院との連携が欠かせない。若年層の自殺や拒食症の増加、職場でのメンタルヘルズ……。問題は各所にあり、対応するには、医療機関のみならず学校や企業など各所との連携が重要だ。何かあったときに一丸となれる。顔の見える関係性。それが地方の強みだと信じている。そうした環境の中で、育てたいのは「良い精神科医」。患者に共感することができ、関係性を築ける医師。後進が育てばアイデアも増える。人を育て、地域に貢献したいと静かに語る。

パーキンソン病やALSなどの神経変性疾患などもその領域だ。就任からまる3年となる太田康之教授が最近スタートさせたのは、パーキンソン病の非運動症状の実態調査。パーキンソン病は、難病指定された患者だけでも県内に約1000人いるという。運動機能が落ちることは知

られているが、実はうつや睡眠障害といった幅広い症状が見られる。今回の調査では、県内の医療機関と連携し、パーキンソン病と診断された患者の症状を広く調べ、遺伝子変異との関連を調べる計画だ。その結果、疾患ごとの細かい病態が明らかにできれば、オーダーメイドの治療につなげられる可能性も広がるという。パーキンソン病は近年、高齢での発症が増え、高年齢者が多い山形県は治療や研究の先進地でもある。「日本の未来像を先行する地方こそが最先端。山形だからできる研究を追究したい」

も。力を入れていたのは小児科から成人科への移行だ。難病と診断がわかった小児患者の成長に合わせた、地域のホムドクターにつながる道筋を、県医師会などと連携してつくり出すという取り組みだ。

脳神経内科は「一人をみる診療科」と太田教授は語る。画像や検査の数値には表れないものを、医師がみて診断を付ける。コロナ禍でオンライン診療が進んだが、画面越しでは分からないことが確実にあった。対面の重要性を痛感した3年間だった。アフターコロナは難病に関する広報活動、認知症を正しく知るための啓発などにも注力するつもりだ。

「学生の外科離れ」といわれて久しい。全国的に医学部が、ハードでリスクが高いとして外科を敬遠する傾向がある。内田教授は「もちろん、いろんなことも多い」と前置きしつつ、「せっかくなので患者を救ったという達成感をぜひ味わってほしい」と説く。母校で教授になった今も、根っこにあるのは「もったいなく手術がうまくなりた」という一心。そして少数精鋭の講座で、後進と切磋琢磨する。



山形大学医学部 外科学第二講座 教授 内田徹郎氏

山形大学医学部卒。国立循環器病研究センターなどを経て2021年から現職。

View for the Future

新たなステージへ

りんごとワインの里

朝日町立病院

院長 小林 達

診療科目 / 内科・外科・整形外科・眼科

〒990-2321 山形市朝日町大字宮宿843 ☎(0237)67-2125 FAX(0237)67-3533

県民の医療を守る

山形市立病院済生館

山形市病院事業管理者 貞弘 光章

山形市立病院済生館高等看護学院 看護学院院长 増田 啓治

〒990-8533 山形市七日町一丁目3番26号 TEL(023)625-5555 ホームページ https://www.saiseikan.jp/

Oguni town hospital

山形県小国町 小国町立病院

院長 伊藤 宏

西置賜郡小国町大字あけぼの1-1 TEL0238-61-1111 FAX0238-61-1115

一病院基本理念
「地域住民から信頼される病院」

白鷹町立病院

白鷹町病院事業管理者 高橋 一二三 病院長 藤島 丈

診療科 / 内科、外科、整形外科、婦人科、皮膚科

〒992-0831 西置賜郡白鷹町大字荒砥甲501 TEL(0238)85-2155(代表) http://hospital.shiratakyama.yamagata.jp

公立高島病院

院長 泉谷 健

高島町大字高島386 TEL(0238)52-1500 FAX(0238)52-1515 https://takahatahospital.jp

私たちは信頼される放射線技術を提供します

一般社団法人 山形県放射線技師会

会長 佐藤 晴美

山形市飯田西2-2-2 山形大学医学部附属病院放射線部内 https://yamahogi.jp

山形県保険医協会

理事長 中島 幸裕

山形市本町2丁目1-2 フコク生命ビル2F ☎023(642)2838 https://www.hokeni-yamagata.jp/

社会福祉法人 済生会

山形済生病院

院長 石井 政次

〒990-8545 山形市沖町79-1 TEL023-682-1111代 https://www.ameria.org

病院の理念 「心温かい 信頼の医療」

東北中央病院

院長 田中 靖久

山形市和合町3-2-5 TEL(023)623-5111 https://tohoku-ctr-hsp.com/

* 悠愛会理念 * 「ゲストは恋人」

医療法人 悠愛会 大島医院

〒990-2321 山形市飯田西4丁目1-14 ☎641-6419

上部・下部内視鏡 / 超音波 / 骨密度測定装置(DXA) (GE)1.5テスラMRI / (GE)64列マルチスライスCT

産婦人科

- 月、水、金、土(9:00~14:00)
- 火曜日、日曜日は午前中のみ診療
- 木曜日・祝日休診
- WEB予約可能

医療法人 横山厚生会 横山病院

山形市十日町三丁目6-48 TEL023-622-3415 FAX023-622-3430 https://www.yokohosp.com

医療法人社団 松柏会

至誠堂総合病院

理事長 中島 幸裕 院長 小林 真司

山形市桜町7番44号 TEL023-622-7181 FAX023-642-8101 http://www.shiseido-hp.jp

医療法人 篠田好生会

篠田総合病院

篠田好生会理事長 篠田 淳男

山形市桜町2-68 TEL023-623-1711代 FAX023-625-2440 https://www.shinoda-hp.jp

山形の未来医療を拓く

山形大学医学部PR特集

東日本重粒子センター

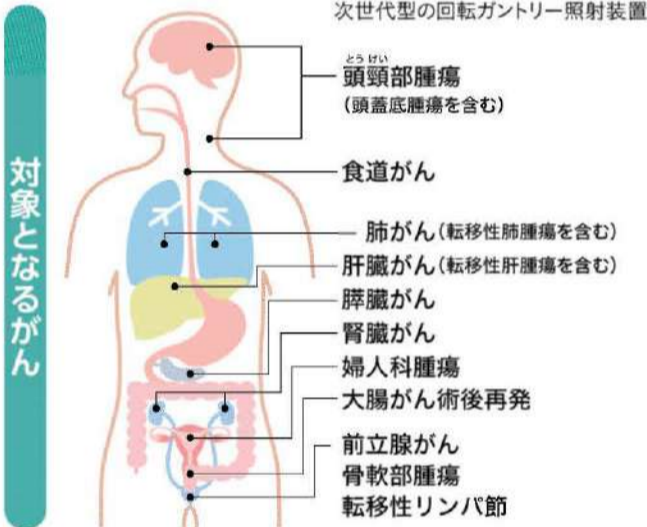
がん治療の新たな選択肢へ 東日本重粒子センター本格稼働から半年

山形大学の「東日本重粒子センター」は、東北・北海道で初めての、がんの重粒子線治療施設。2021年2月に前立腺がんへの治療を開始し、後に回転ガントリーの照射装置も完成。段階的に治療対象を広げ、22年10月から当初予定していた全ての疾患の治療受け入れを開始した。

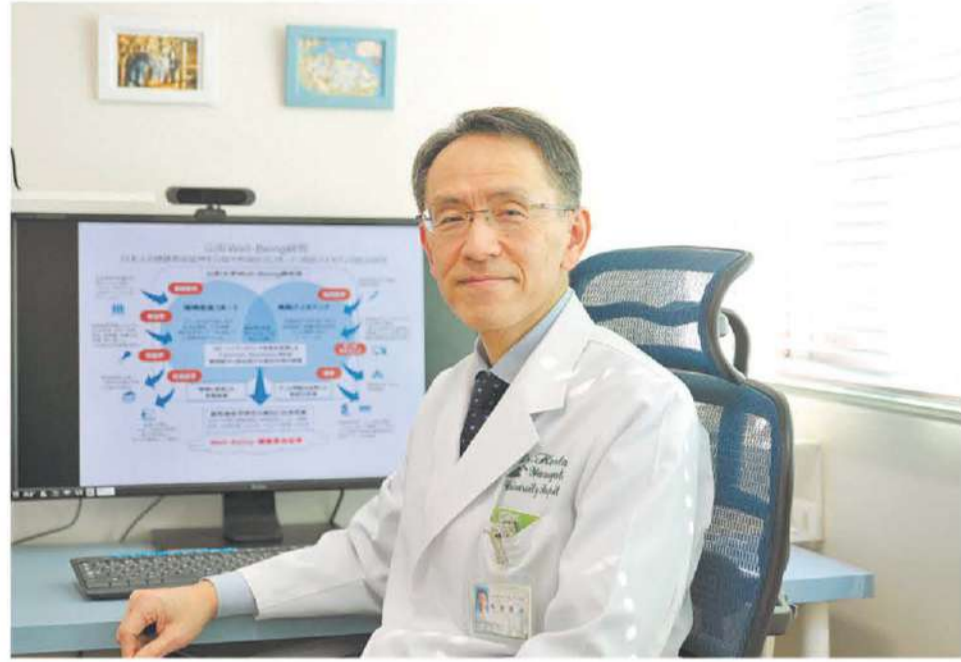
治療を受けた患者を疾病別に見ると、前立腺がんをトップとして、膵臓がん、肝臓がんの割合が増加している。また22年度から保険診療の対象が拡大したことで、さらに治療依頼が増えた。センターの稼働状況は順調で、目標としている年間患者数600人を近く達成する見通しだ。がん治療の新たな選択肢として着実に認識が広がっている。



次世代型の回転ガントリー照射装置



対象となるがん



山形大学大学院医学系研究科 公衆衛生学・衛生学講座 教授 今田恒夫氏

歴史と実績ある地域住民コホートと 病院のバイオバンクを統合し 「山形 Well-Being 研究所」を新設。 最終目標は、住民が健康で、幸せな山形県。

山形大学医学部、内科医として腎臓病を専門とする中で予防に興味を持ち、医学部のコホート研究に携わる。2017年から現職。

山形大学医学部、内科医として腎臓病を専門とする中で予防に興味を持ち、医学部のコホート研究に携わる。2017年から現職。

教育と診療に加え「研究」も山形大学医学部が担う大きな使命。基礎から臨床まで、日々さまざまなテーマで進展している。中でも長年にわたり、山形大学医学部を挙げて取り組んできたのが「コホート研究」だ。山形の地域性と県民の協力があってこそ成立し、成果は県民に還元されている。発展に尽力してきた今田恒夫教授(公衆衛生学)にその最前線を語ってもらった。

研究の最前線

山形大学医学部では各講座で研究がなされているが、「メディカルサイエンス研究所」を拠点に、学部全体として取り組んでいる研究もある。その目玉が「山形県コホート研究」だ。コホート研究とは、ある集団を長期的に観察することで、疾病の要因と発症の関係を調べるもの。山形大学医学部は、1970年代に始めた「舟形コホート」を源流に、2003年から高島町で約3千人規模の調査をスタートさせた。この頃からゲノム解析も行われるようになった。09年からにはさらに大規模な「山形コホート」が開始した。山形市など7市に住む2万人超の賛同を得て、毎年健診データを提供してもらっている。高島山形のコホートをまとめ、「山形県コホート研究」と呼び、約2万3千人の集団をずっと追跡調査している。

その結果、運動習慣や食べ物・元々の体質や病気の関係、人の心の動きなどが次々と明らかになってきた。論文もたくさん発表され、学術的に成果が表れてきた。しかし、それで終わりではない。論文が書かれてもみんなが健康になるわけではない。成果を県民に返し、最終的には山形県民が健康になり、幸せになることが目的だ。

一方、山形大学医学部ではコホート研究に加え、大学病院で患者のバイオバンクを行っている。コホート研究で集積された地域住民の「病気になる前」のデータと、病院で集積された「病気になる人」のデータを、双方を持ったのは全国の大学でも珍しい。これこそ山形大学の強みである。

加えて、総合大学である山形大学では、さまざまな領域の研究者が協力する体制も構築されている。山形県は日本人のウェルビーイング研究を行うための理想的な条件が揃っている。研究の目標は、一人一人に合った予防法・治療法の開発と創薬につなげる。そして講演やアプリを利用し地域全体へ還元すること。その結果、山形県民が健康になり、幸せになることが合わせて目指したい。

View for the Future 新たなステージへ

医療法人社団 清永会
http://www.seieig.or.jp

矢吹病院 山形市瑞北四丁目5-5 ☎023-682-8566

本町矢吹クリニック 山形市本町一丁目16-17 ☎023-615-1877

天童温泉矢吹クリニック 天童市南一丁目12-10 ☎023-638-8811

南陽矢吹クリニック 南陽市若狭町917-11 ☎0238-49-8225

一般財団法人 三友堂病院
理事長 仁科盛之

〒992-0045 米沢市中央6丁目1-219 ☎0238(24)3700
https://sanyudo.or.jp

治療前の精密検査から治療後の外見ケアまで、幅広く治療を保障。

Afrac アフラック

山形県弁護士会会員 古澤・内藤法律事務所

代表弁護士 内藤和暁
弁護士 小野寺弘行

事務所/〒990-0055 山形市相生町6番56号 TEL023-631-7507 FAX023-631-7174

鈴木外科胃腸科医院
院長 鈴木明彦

診療時間 月火木金 8:30~12:00, 13:30~18:00
水 8:30~12:00
土 8:30~12:00, 13:30~15:00
休診日 日曜、祝日、年末年始

山形市七日町4-4-7 ☎023-623-1966

かわぞえ嶋北泌尿器科内科クリニック
院長 川添久

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
午後 2:30~6:00	○	○	○	○	○	○

TEL023-665-1660 〒990-0885 山形市嶋北3-10-1
https://www.kawazoe-clinic.com

さとこ女性クリニック
受付専用 TEL 18603-4570-3105 URL http://3105.ataat.jp

院長 井上聡子
〒990-0892 山形市大字中野4103
TEL:023-687-0213
http://www.satoko-clinic.info

医療法人皮膚科 明石医院
院長 伊藤義彦

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	○
14:00~18:00	○	○	○	○	○	○	○

山形市瑞北一丁目9-22 ☎(023)622-7621 山形市瑞北一丁目100-7 ☎(023)622-7621
http://akashi-hifuka.jp/

きくち内科医院
院長 菊地義文

山形市松見町16-24(旧岡田医院) ☎(023)664-1285

佐藤清医院
院長 佐藤清

TEL990-0061 山形市五十鈴1-6-56 ☎023(626)7275

山形大学医学部附属病院での重粒子線治療は JA共済の『医療機関直接払制度』の対象です。

医療機関直接払制度

JAから共済金を医療機関の口座に振り込みますので、ご加入者さまから医療機関に重粒子線治療の技術料をお支払いいただく必要はありません。

JA共済 がん共済 メディカル

JA共済山形 / 山形市七日町三丁目1番16号 ☎023-634-8250

いついかなる時も、いちばんそばに。

To Be a Good Company 東京海上日動

安心の先にある幸せへ。

第一生命保険株式会社 山形支社

TEL990-0031 山形市十日町1-1-34 リアライズ山形駅前通ビル TEL023-631-5711(代)

山形厚生病院

当院は、認知症高齢者の医療を中心に、これからの超高齢化社会を支える地域に密着した病院の一つです。受診、入院、デイケアについてご相談ください。

診療科目 精神科、内科
診療時間 (日曜・祝日は休診)
【精神科】 9:15~12:00, 13:30~16:30 ※土曜日のみ16:00までの診療
【内科】 9:15~12:00, 13:30~16:00

山形市大字菅沢字鬼越255番地 ☎023-645-8118
http://tmw.or.jp/